

高大接続システム改革会議「中間まとめ」（抜粋）
（平成27年9月15日高大接続システム改革会議）

3. 大学入学者選抜改革

(2) 「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入

ウ 具体的な制度設計の考え方

対象教科・科目等

(次期学習指導要領下における基本的枠組み（平成36年度～）)

次期学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、大学入学者選抜における共通テストとして、特に思考力・判断力・表現力を構成する諸能力をより適切に評価できるものとする。

- ・ (略)
- ・ 中央教育審議会が次期学習指導要領での導入を検討されている「数学と理科の知識や技能を総合的に活用して主体的な探究活動を行う新たな選択科目」（「数理探究（仮称）」）に対応する科目を実施する。
- ・ 数学、理科については、知識・技能に関する判定機能に加え、思考力・判断力・表現力を構成する諸能力に関する判定機能を強化する。
- ・ (略)
- ・ 次期学習指導要領における教科「情報」に関する中央教育審議会の検討と連動しながら、対応する科目を実施する。

出題・解答・成績提供方式

(難易度設定の考え方)

「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」について広範囲にわたる受検者が受検する可能性があるため、問題の難易度をできるだけ広範囲に設定する。なお、一般に「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する問題を多く出題するとテストの難易度は上がる傾向にあることを念頭に置く必要がある。また、選抜性の高い大学が入学者選抜の評価の一部として十分活用できるよう、高難度の問題を選択できるようにする。

さらに、次期学習指導要領での導入が中央教育審議会において検討されている、「数理探究（仮称）」等を念頭に置き、平成36年度以降、当該科目に対応した高難度の出題を行うことについても検討する。